

# 入所者への対応 効率的に

## 旭川の老人ホーム「菜の花」

### 情報共有型の携帯端末導入

旭川市永山の有料老人ホーム「菜の花」（定員30人）は、入所者が職員を呼び出す際に使う独自の携帯型情報端末システムを導入した。職員間で瞬時に連絡調整できるなど、小規模な福祉施設向けとしては全国でも珍しい情報共有型システムという。同ホームの依頼を受けた市内のシステム開発会社アイビースが開発した。

（太田一郎）

これまでのシステムは、入所者が首から下げたペンダント式のコールボタンを押すと、ホームの職員が持つ端末に一齐に部屋番号が表示されるものだった。このため、複数の職員が同時に駆け付けたら、逆に「他の誰かが行くだろう」と思い込み誰も行かないこともあった。

より効率的な対応ができるようにと、同ホームの藤田明村長がアイビースに開発を発注。昨年12月末に完成・導入した新システムでは、職員が持つ端末に一齐に呼び出しが表示された

### 職員負担軽減 呼び出し管理

際、対応可能な職員が端末で「対応する」を選択、同時に他の職員にも伝わるようになった。1人では足りない場合、他の職員や看護師を個別に呼び出す機能もある。

さらに、それぞれの入所者の介護や投薬のスケジュールを端末で職員が共有、時刻が来ると担当者に通知する。玄関などに付けたセンサーが人が近づくと端末に通報し徘徊を防止できる。

同ホームの北川恵管理者は「職員の負担が軽減された」と話す。藤田社長によると、情報共有できる高齢者施設向けのシステムは全国でも珍しいとしている。

システムは端末5台の規模で約350万円。アイビースの伊藤正樹社長は「今後、他の高齢者施設などにも広めたい」と話している。

問い合わせは、アイビース 0957-0166・29・5095へ。

「菜の花」が導入したナースコールの新システム。携帯型端末（手前）と管理用パソコン

